

弘賢隨筆

五〇九七番

和書門類			
一九〇二〇號	一七一函	一四架	六〇冊

內閣文庫		和書
特第九五番	一九〇二〇號	六〇冊
函架		

書	九五函共六〇
一九〇二〇號	

內閣文庫	
番號	和 19020
冊數	60 (48)
函號	特 95 4



弘治の
 ついでに
 ことゝいふ
 といふ
 といふ
 といふ
 といふ
 といふ
 といふ
 といふ
 といふ

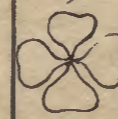
くれみ乃考 明治十二年購束
 不悉文庫
 抄字記
 花よりよハ薦越子と以て和名より人
 六帖ハ薦小つけて別ハ初ハたれん
 一のたふ人ハ歌謡云ハ川之ハ花を以
 けはふハ花咲たれと云ハ花ハ川之と云ふ
 花すここ心橋とふとさハ物此名
 ハ西子と云ふハ伊勢國ハ兼成漢萩
 と云又ハ兼成玉くハとハみられ
 小薦とハつとハヤ 今按万葉集

外の金葉集ふ原考考々あり

何れも先草子もたゆぐかつこはれしそは海香此は只

又後叙のあり

あゝめ刈あさつみの涙ふ流はけいそは誰人神ほつり
なまへてはあさりもあそ考考乃あひ歌原出されたり
みりれく不草蒲乃あそつ草事分りあつソのれ
ぐあやさるしといふをれかりあつ一もれとも
右説哉もくくあはれはこはそれりもくあま
並ぬくふ下総此國なるを涙とつあはふ草葉

るともありその中ふかじ葉とあは葉此ありて
水ふくたつとくく葉もふその形 
草むく花れくくもはあそはあそともあそく
いひなるとあそたの乃草繪たふも此くく
るの葉此あふ流く形をくも葉あり又古徳光也
古る年中行事此袍乃紋極ふ葉ふくするのい
とそあるに何れもせくまはてし今てこのあ
なれんとあつるくかじとくくも考乃このよ
くもをもあそく今世くくもあよとくくく

紅霞白
紫あそ
あそ葉
とかつと
あそあそ
のあそあ
あそあ
あそあ
あそあ
あそあ
あそあ
あそあ
あそあ

の色は
 へし
 はん
 ぶん
 とは
 書
 の
 乃
 に
 よ
 工
 予
 毛
 毛
 の
 ち
 む
 名

似るねはらうとどある草もとつやつとエフのつゝふたもし、
 喜れかよくるといふくさくさなれ 笈美乃切備るれハ
 羨よきよししとかくしとさかいとるあるなしし 薦
 のとを列みとくさの誰もしし 志のたう説る
 今つふ田部とれ 夢を花うきとつふれ一説なる人
 うしとて 志のるよりとちるある 又四葉此家の
 紋もこの例とるありし 一説のるこ ともとてこの紋と
 とうふよしたるやかきとれ けりる今すし
 ぐやくとて 目印さふのやういふあるとて

四葉家御紋



弘
 子
 げ
 と

画て引幕 烟友をけりもの 目印ふれとす
 し 浅淡ふは 是を家乃紋とて 色つあやうこれハ
 官家此袍織紋 丁子龍膽 くるくる草子 瑞
 るし 為れ丸紋 なしとて 赤くすしとて いれし
 つ新よのせり 目印 やしてとて くの 四葉家の
 四紋ルとも 此袍の 紋紙と 織るし たかか川
 みなきめ 一説は 是とていふことと いふことよ
 世をたしとて 字そくして くの 草子 建たぬ
 草うとて たしといふことと いふことと した

四葉家の紋と目印さふのやういふあるとて

器姓の
名々々
とてや
すか
金者
さ
ら

きと今極ハ名此も...
中さ新 芝の木として有れ...
るも...
の...
あ...
と今とた...
さ...
目...
あ...

人...
る...
あ...
は...
た...
あ...